



# いろは通信

平成24年度 伊達政宗公姫「五郎八(いろは)」倶楽部 活動報告



\*紙芝居の出張上演をいたします。  
落合地区のお話で、地域の歴史の勉強になります。お問合わせはこちらまで。  
事務局長 佐藤康子 (電話: 022-281-3408)



5/15 (火) と17 (木) 紙芝居上演  
「五郎八姫と栗生の里」

青葉城資料展示館を修学旅行で訪れた富谷町豊寿大学のメンバー約200人に、紙芝居を上演いたしました。豊寿大学の代表者の方からいただいたお礼状を以下にご紹介いたします。

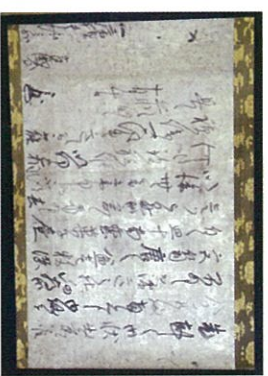
「紙芝居の上演は大変好評でした。情感たっぷりの熱演で受講生の中には涙ぐんでいる方もいました。拍子木の音、自然な仙台弁、多彩な登場人物、的確な効果音、黒に統一したスタイル...工夫を凝らし、五郎八姫と人々の交流を描ききっていらっしゃる。大変充実した修学旅行になりました。感謝いたします。」



6/17 (日) 五郎八姫生誕茶会

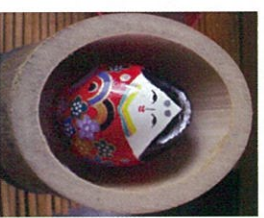
6月16日は五郎八姫の誕生日。会場の都合で一日遅れとなりましたが、姫の誕生を祝ってお茶会を開催しました。織部流の蜂谷先生、熊谷先生社中のご協力のもと二重棚珠光飾りのお手前をしていただきました。織部流は政宗公が最初に古田織部から習った茶道で、京都堀川の地で現在まで脈々と伝承されている武家流の文化です。50人ほどの方々が入りきれ優雅なひと時に思いを巡らせました。

床には古田織部直筆の消息の掛物。「南坊録」に掛物ほど第一の道具なしと言われるように本日のご亭主の心が。室礼も初夏の装いに。1椀目が志野焼き。研ぎ澄まされた姫の雅な生活が。2椀目に京焼きの「松島」の銘。結婚をされ越後高田城へ。幸せは長くは続かず、たどり着いたのは仙台城。松島の雲居国師に巡りあい心の安らぎを。落合蕃山の麓、西館で生活。3椀目は織部焼きのどつしりとしたお茶碗。武家の息女としての気高い生活での生涯を。お相伴には一口また一口と喫いきると本日の茶会の[寿]の文字が。姫の一生が偲ばれるお茶会となりました。



7/21(土) えっくクラフトでお姫様を作ろう

「えっくおじさん」と菊地克三先生のご指導で、卵の殻にアクリル絵の具を塗って世界に一つだけのお姫様を作りました。家族で参加した方もいて、子供から大人まで思い思いの作品作りを楽しみました。絵筆を持つのは何年ぶりかな? という会員もいましたが、無事完成して出来上がったお姫様を持ち帰りました。



えっくクラフト作品  
(作: 菊地克三氏)



11/11(日) 松島・天隣院での移動研修会

五郎八姫の菩提寺である天隣院で、村山秀充ご住職より講話をいただきました。夫の松平忠輝公と姫の間に生まれた男子、黄河幽清は天隣院の2代住職です。忠輝公の改易で姫が離縁となつてから生まれたため、母と別れ他家で育てられたといひます。幽清住職のお墓も天隣院内にあります。五郎八姫に思いをはせながら、松島の海と散策も楽しみました。



五郎八姫の一生を振り返り、講話にお参りました。屋に



# 新潟県上越市での講演会と見学会に参加

平成24年10月13日(土)上越市の「松平忠輝公と五郎八姫の会」(代表:日下敏江氏)主催で、高田開府400年に向けての講演会が開催されました。この講演会と14日(日)の見学会に招きを受けて、会員6人が参加し、忠輝と五郎八姫の貴重な話を聴き、歴史に満ちた上越の街と主催者の温かい心遣いに触れることができました。

■銘笛「乃可勢(のかぜ)」に込められた家康の本心  
講演会は13日(15:00～16:00)に「雁木通りプラザ」で開かれました。講師は土生慶子氏で演題は「松平忠輝公と五郎八姫」、約170人の参加者がありました。土生先生は2人の誕生から晩年までを紹介され、その中で「家康が忠輝との対面禁止後に、信長・秀吉・家康と引き継がれた銘笛「乃可勢」を形見として与えた。この笛には、どんなことがあっても「生き通せ」という、忠輝に対する家康の本心が込められていたのではないか」と話されました。



忠輝と五郎八が二年間過ごした高田城址

■忠輝の赦免は対面禁止から370年後  
講演会終了後、参加者による意見交換会が行われました。忠輝の墓所諏訪市貞松院住職の山田和雄氏は、「忠輝没後300年を機に赦免を思い立ったが、どう動いたらよいのか分からなかった。偶然、尾張徳川家の子孫に会い、そこから宗家当主の徳川恒孝(つねなり)氏にはたらきかけ、昭和59年7月3日(対面禁止から371年後)に「永対面禁止を解く」の赦免状が下された」と話されました。当倶楽部の佐藤事務局長からは、倶楽部の設立趣旨と活動内容について話してもらいました。

## 歓待に感謝！五郎八姫のお陰

上越市では、高田駅での出迎えから講演会、意見交換会、懇親会、見学会、そして見送りまで、どこでも、どなたからも温かいお心遣いをいただきました。訪れる人の旅情を誘う雁木通りは、生活の知恵であり、人々の温かい心の現れ、その心は厳しい冬の自然に育まれたのでしょうか。

カトリック高田教会  
五郎八姫のステンドグラス  
(作:村山 陽氏)



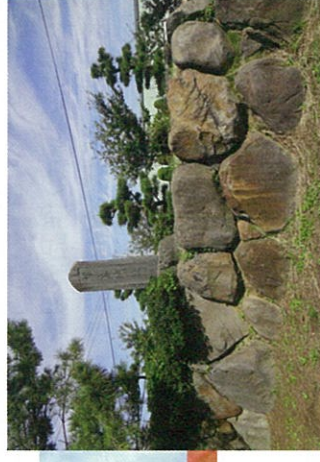
## ■ゆかりの地で 忠輝と五郎八姫を偲ぶ

翌14日の見学会(8:00～13:40)は、午前中は宿泊したホテルの社長さん運転の送迎用の車で、午後は上越市の会員のかたの車に分乗して、春日山-林泉寺-福島城址-高田城址-弥念寺-栄樹寺-カトリック高田教会-思城庵を案内してもらいました。

高田城址では、政宗が普請奉行として新築された城に晴れがましい気持ちで入場し、忠輝の改易・配流により離縁し、傷心の思いで高田を離れなければならなかった2人を偲びました。弥念寺では寺宝の家康が忠輝に与えた兜神と家康自筆の軸を見せてもらい、カトリック高田教会でステンドグラスに浮かぶ五郎八姫と対面することができました。

## ■「いろはもみじ」を高田と松島のかげはしに

上越市の市民団体「お馬出し(おんまだし)」プロジェクト代表の宮越さんが、「いろはもみじ」の普及をしていると、若木をわけてもらえないかとお願いしましたら、「松平忠輝公と五郎八姫の会」で寄贈してくださるということでした。戴いたら五郎八姫が眠る松島天隣院の霊廟近くに植栽できることも、ご住職に許しを得ております。「いろはもみじ」が高田と松島を結ぶかけはしになれば、五郎八姫も喜んでくれるのではないのでしょうか。



福島城址

上越は温もりのある街でした。この度は貴重な史跡を見学し、多くの方々に出会い、上越市とのつながりもできました。これも五郎八姫のお陰だと思っています。